

府県名		滋賀県	兵庫県	大阪府
支援拠点機関名		滋賀県高次脳機能障害支援センター	兵庫県立総合リハビリテーションセンター	障がい者医療・リハビリテーションセンター
研究発表(論文・学会発表・著書など) ※件数のみ記入。 詳細は添付資料2参照		○滋賀県高次脳機能障害支援センター 論文発表1件 学会発表1件  ○滋賀県立リハビリテーションセンター 学会発表8件	論文発表2件 学会発表6件 著書0件	論文発表1件 学会発表6件 著書0件
知的財産権の出願・登録状況 健康危険情報		なし	—	なし
中学生・高校生 に対する取り組み	ケースの有無 「有」ならば ①評価・診断について ②訓練について ③連携機関について	有 ①診断:滋賀県成人病センター・主治医 評価:滋賀県成人病センター・スクールカウンセラー・クリニック 診療:障害者総合診療所(県立むれやま荘) ② ③学校・教育センター・保健所・医療機関・千葉県リハビリテーションセンター・生活支援センター・滋賀県発達障害者支援センター・児童デイサービス・市障害福祉課・滋賀県地域生活定着支援センター・保護観察所・専門学校	—	有 ①大阪府立急性期・総合医療センター・主治医 ②大阪府立急性期・総合医療センター・かかりつけの病院 大阪府立障がい者自立センターでの訓練(高校生以上) ③学校・教育委員会と連携 他県支援拠点機関と連携(他府県連携)  ※新規・継続ケースともに、相談があれば随時対応
	研修会・勉強会等の実施状況	—	—	今年度実施予定なし
今後に向けての課題		●地域で継続的に対応できる体制整備(相談機関の充実) ●医療・福祉だけでなく教育や企業、司法領域との連携(垣根を越えた啓発・周知) ●診断書作成が可能な病院の要請(協力医療機関の要請)  専門的な診断評価機能を有する医療機関から就労や地域生活までの具体的なステップが不足している状況。今年度、いくつか試行している取組を体系化することと、就労継続支援事業所などの福祉サービス事業所に対して、医療から具体的な実践的取組を提案する必要性がある。	●高次脳機能障害専門医及びリハ受け入れ施設の確保 ●県内のネットワークの構築 ●支援コーディネーターの継続配置 ●県内における高次脳機能障害支援体制検討特別委員会(仮)の設置 ●地域事業所における高次脳機能障害者の受け入れ実態の把握と支援マップの作成等	●政令指定都市(大阪市・堺市)との連携・堺市圏域における「健康福祉プラザ」との協力・連携 ●各圏域内の診断・リハビリ等可能な医療機関の充実 ●各圏域内の相談支援体制および人材育成の充実 ●各圏域内で生活訓練・就労支援等を提供できる事業所の充実

近畿ブロック 高次脳機能障がい者支援体制整備状況(政令市)(平成24年9月現在)

市名		京都市	神戸市	大阪市	堺市
所管課		京都市保健福祉局障害保健福祉推進室	神戸市保健福祉局 ・障害福祉課 ・更正相談所 ・自立支援課	大阪市福祉局障害者施策部障害福祉課	堺市 健康福祉局 ・障害福祉部 障害施策推進課 ・健康部 精神保健課
担当者氏名(職種)		三島 美智子 (精神保健福祉相談員)	泉 伸介	坂田 卓子(事務職)	【障】中島 宗幸 (事務職員/精神保健福祉相談員) 【精】福家 祐子 (事務職員/精神保健福祉相談員)
取り組み状況	独自の取り組み	未実施	特に実施していません	—	○平成24年度開設の健康福祉プラザ内に、生活リハビリテーションセンターを設置(高次脳機能障害支援のセンター的機能を果たすものとして)。 ○同センターにコーディネーターを配置し、専門的な相談支援を実施すると共に、各種研修や勉強会、ネットワーク会議等の体制整備や普及啓発を実施。
	府県との連携状況	京都府主催の講演会等への協力参加や高次脳機能障害者支援に対するネットワーク会議への協力参加。	兵庫県の支援拠点機関である県立総合リハビリテーションセンターと連携して実施	大阪市圏域地域支援ネットワーク会議	○大阪府高次脳機能障がい相談支援体制連携調整委員会、高次脳機能障がい支援ネットワーク近畿ブロック連絡協議会へ出席。 ○高次脳機能障がい支援普及事業受託。 ○その他生活リハビリテーションセンターのコーディネーターを中心とした日常的な連携等。
	訓練提供状況	未実施	障害者地域生活支援センター職員等を対象に、研修会・情報交換会を開催	—	○生活リハビリテーションセンターにおいて、自立訓練を実施
	その他	—	—	—	○市内当事者会(堺脳損傷協会)による研修会に係る周知協力等。
就労支援について	どのような経路で就労支援を行っていますか	未実施	神戸市障害者就労推進センター及び地域障害者就労推進センター(東部・北部・西部)を設置し、地域の労働・福祉・保健・教育機関等と連携を図りながら、就労相談、職場開拓、職場定着支援などを幅広く実施している。	障害者就業・生活支援センターでの相談・職場定着支援等。(高次脳機能障がい者に特化した就労支援事業は行っていない。)	○特になし ※主に高次脳機能障害、発達障害のある方を利用者としている。就労移行支援事業所が1つ存在するが、特設市が支援体制を整備したわけではなく、運営法人の自主的な取り組みである。 ○その他健康福祉プラザ内の連携(生活リハビリテーションセンターと就業・生活支援センター)等。
	就労支援を行うにあたっての問題点について	—	障害特性(記憶力の低下、感情のコントロール等)に起因する職業生活上の困難さ。外見上、障害が分かりにくいことによる企業等理解の得にくさ。本人の障害受容が進まないことによる支援機関へのつながりにくさ等	—	○そもそもの部分として、就労支援以前の生活支援の不足。 ○専門的な支援を行える機関や事業所の不足。 ○事業主への普及啓発。
	就労支援を行うにあたっての問題点への対策についてどのようにされていますか	—	記憶補助ツール(メモ、タイマー等)の活用。ジョブコーチ支援、あんしんすこやかセンター(介護保険)との連携・生活面での見守り	—	○特になし ※高次脳機能障害支援ネットワーク推進会議等の活動を通じて検討していきたいが、今のところ具体的な動きにはなっていない。
その他H25年度以降の予定	未定 (京都府が専門相談窓口を設けており、本市としては専門相談等を設けていないが、各保健センター、こころの健康増進センター、身体障害者リハビリテーションセンター、障害者地域生活支援センター等において個別での相談支援を行っており、引き続き同体制で実施予定。)	兵庫県と連携しながら適切に進めていく	—	○生活リハビリテーションセンターを中心に、平成25年度実施のことについて継続実施等。	

## 近畿ブロック 研修会・セミナー等の実施状況

研修会・セミナー名	対象者	開催日	出席者数	講演内容(講演題目及び講演者)
京都府				
第5回京都府高次脳機能障害者・家族交流会	当事者、家族及び支援関係者	平成24年7月23日	68名	「2度目の人生は人の輪の中で」 (奈良脳外傷友の会 あすか 会長 大久保 康子 氏) 「高次脳機能障害を抱える当事者の体験談 ～起き上がったオヤジ～」
第6回京都府高次脳機能障害医療関係者等研修会	医療機関従事者	平成24年9月8日	154名	「高次脳機能障害アセスメントの理解と支援への活かし方 ～最新理論に基づいたWAIS-Ⅲの見立てと支援～」 (京都府立心身障害者福祉センター 課長補佐 心理判定員 大島吉晴氏) 「生活場面からみる高次脳機能障害と地域支援のこつ」 (京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻教授 作業療法士 二木 淑子 氏)
(協力) 第9回脳外傷・高次脳機能障害リハビリテーション講習会(北部)	一般府民	平成24年12月1日	—	「可能性はゼロではない～事故、家族の奮闘そして人に支えられ歩み出した我が子～」 (山陰脳外傷友の会「らぶ」 会長 西村 敏 氏) 「高次脳機能障害とは・・・」 (京都博愛会病院 リハビリテーション科医師 冨田 素子 氏)
第1回京都府高次脳機能障害医師研修会	医療機関従事者	平成24年12月8日	—	「外傷性脳損傷の実態と現状」 (京都九条病院 脳神経外科主任部長 榎原 毅彦 氏) 「高次脳機能障害の診断と評価」 (京都大学医学部附属病院 精神科神経科教授 村井 俊哉 氏)
(協力) 第10回脳外傷・高次脳機能障害リハビリテーション講習会(南部)	一般府民	平成25年2月24日	—	「もっと知りたい！高次脳機能障害のこと」 (独立行政法人国立成育医療研究センター リハビリテーション科医長 橋本 圭司 氏)
和歌山県				
高次脳機能障害支援地域支援ネットワーク研修会	医療・保健・福祉・介護従事者等関係機関担当者	平成24年10月10日	45名	「高次脳機能障害の地域支援ネットワークについて」及び「事例検討会」 (徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部(歯学系) 地域医療福祉学分野教授 白山 靖彦 氏)
高次脳機能障害支援普及事業関係職員等研修会	医療・福祉・介護従事者、当事者家族等	平成24年10月20日	150名	「高次脳機能障害のリハビリテーションについて」 (和歌山県立医科大学 リハビリテーション科 助教 幸田 剣氏) 「高次脳機能障害当事者・家族への支援～家族から伝えたいこと～」 (イラストレーター 柴本 礼氏)
高次脳機能障害支援地域支援ネットワーク研修会	医療・保健・福祉・介護従事者等関係機関担当者	平成24年12月10日	45名	「高次脳機能障害の地域支援ネットワークについて」及び「事例検討会」 (徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部(歯学系) 地域医療福祉学分野教授 白山 靖彦 氏)
高次脳機能障害支援地域支援ネットワーク研修会	医療・保健・福祉・介護従事者等関係機関担当者	平成25年1月～2月	45名	「高次脳機能障害の地域支援ネットワークについて」及び「事例検討会」 (徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部(歯学系) 地域医療福祉学分野教授 白山 靖彦 氏)
奈良県				
平成24年度 第1回高次脳機能障害研修会	当事者・家族・関係機関 等	平成24年10月13日	93名	「高次脳機能障害者の就労支援」 (奈良障害者職業センター 所長 那須 利久氏) 「働き盛りで倒れたら～当事者・家族から伝えたいこと～」 (イラストレーター 柴本 礼氏)
滋賀県				
高次脳機能障害支援センター				
平成24年度第1回高次脳機能障害研修会	当事者・家族 医療、福祉関係者等	平成24年5月27日	94名	高次脳機能障害者家族の支援 ～当事者・家族がしてほしいこと (講師 柴本礼先生)
平成24年度第2回高次脳機能障害研修会	相談支援機関等	平成25年1月予定	—	未定
滋賀県立リハビリテーションセンター				
教育研修事業 高次脳機能障害コース	高次脳機能障害の支援に係る職種全般	H24年8月26日(日) H24年11月18日(日)	38名 53名(予定)	「生活支援における高次脳機能障害の捉え方や対応法」 (滋賀県立成人病センター 川上寿一 氏 他)
高次脳機能障害相談支援者養成研修	高次脳機能障害の支援に係る職種全般	H24年10月13日(土) H23年10月14日(日) ※2日間日程	36名	—

研修会・セミナー名	対象者	開催日	出席者数	講演内容(講演題目及び講演者)
大阪府				
高次脳機能障がい 支援関係機関職員等研修会 (1)	支援関係機関等職 員	平成24年6月20日	250名 参加者 232名 講師1名 主催者17名	①「大阪府における高次脳機能障がい支援普及事業について」 (大阪府障がい者自立相談支援センター 身体障がい者支援課 課長 今春 泰邦氏) ②「高次脳機能障がいとは」～高次脳機能障がいの基礎的な理解と対応 ～ (なやクリニック副院長 納谷敦夫氏)
高次脳機能障がい 当事者・家族等研修会	当事者・家族等・高 次脳機能障がいに 関心のある府民の 方	平成24年7月8日	1323名 一般参加者 1213名 ボランティア 応援者 50名 大阪府議会 議員 4名 豊中市議会 議員 6名 主催者関係 者 50名	・開演 1.主催者挨拶 2.来賓紹介 3.大阪府高次脳機能障がい支援普及事業について ・大阪音楽大学によるボランティア演奏(友情出演) I 管弦楽 グループ名:プレスティープラス 金井 晶子(トランペット) 平田 聖奈(トランペット) 坂東 裕香(ホルン) 大西 夏生(トロンボーン) 藤田 敬介(チューバ) 舞台準備の間に【アピール企画】 「高次脳機能障がい者の親亡き後を考える」～当事者家族会より～ II 声楽 鹿岡 晃紀 演奏(ピアノ)馬場 愛莉 ・柳 浩太郎氏講演
高次脳機能障がい 相談支援者養成研修	高次脳機能障がい 地域支援ネットワ ーク協力医療機関職 員(MSW・OT・PT・ CP・Ns等)  高次脳機能障がい 地域支援ネットワ ーク地域支援協力機 関職員(相談支援事 業所・障がい者支援 施設・作業所・就労 生活支援センター等 職員)	平成24年6月11日	54名 病院関係 14名 就労関係 8名	1.高次脳機能障がい支援普及事業について(大阪府の取り組み) 拠点機関の役割と地域との連携(地域支援ネットワーク) (大阪府障がい者自立相談支援センター 身体障がい者支援課 課長 今 春 泰邦氏) 2.高次脳機能障がいの理解(基礎) ①高次脳機能障がいとは (大阪府立急性期・総合医療センター リハビリテーション科 主任部長 渡 邊 学 Dr) ②診断基準の経過及び内容 (大阪府立急性期・総合医療センター リハビリテーション科 池埜 弥生 OT) ③高次脳機能障がいの診断と評価 (大阪府立急性期・総合医療センター リハビリテーション科 岡部 伸太郎 CP) *グループワークとグループ発表
		平成24年6月22日	障がい者支 援施設(作 業所) 13名 相談支援員 19名	1.高次脳機能障がいとその基本的対応について ①高次脳機能障がいとその基本的対応について (大阪府立障がい者自立センター 辻 寛之 OT) ②社会的行動障がいへの対応 (大阪府立障がい者自立センター 辻野 琢也 CP) 2.大阪府立障がい者自立センターにおける支援の実際 ① 生活訓練プログラム (大阪府立障がい者自立センター 辻野 琢也 CP) ②生活場面での事例紹介 (大阪府立障がい者自立センター 福添 節代 CaW) ③地域移行支援の実際 (大阪府立障がい者自立センター 小山 智美 CW) 3.就労支援の実際 (クロスジョブ堺 濱田 和秀 所長) *グループワークとグループ発表
高次脳機能障がい 相談支援者養成研修	高次脳機能障がい 地域支援ネットワ ーク協力医療機関職 員(MSW・OT・PT・ CP・Ns等)  高次脳機能障がい 地域支援ネットワ ーク地域支援協力機 関職員(相談支援事 業所・障がい者支援 施設・作業所・就労 生活支援センター等 職員)	平成24年7月4日	54名 病院関係 14名 就労関係 8名 障がい者支 援施設(作 業所) 13名 相談支援員 19名	①社会福祉制度について 大阪府立急性期・総合医療センター 酒井 味 香子MSW ・ロールプレイ *グループワークとグループ発表
		平成24年7月9日～ 平成24年7月13日の うち1日		フィールドワーク(11箇所に分かれて) ①いきがいワーク ②第1ヒューマン ③第2ヒューマン ④工房ヒューマン (日の出作業所) ⑤羅針盤 ⑥第2工房羅針盤 ⑦交野自立センター通 所部 ⑧キッズ枚方コミュニケーションズ ⑨麦の会ラベンダー作業所 ⑩ すみれ共同作業所 ⑪大阪府立障がい者自立センター
		平成24年7月18日		フィールドワークの報告・情報交換会 ①「当事者・家族からの体験報告」 (大阪脳損傷者サポートセンター 家族 石橋 佳世子 氏 ) ②「当事者・家族からの体験報告」 ・「青春もった中、バイク事故で脳損傷を負った息子の8年間」 ～意識不明から回復、そして、大学は出たけれど～ (堺脳損傷協会 家族 三好 ひとみ 氏) ・当事者・家族を囲みグループ別交流会 *グループワークとグループ発表

研修会・セミナー名	対象者	開催日	出席者数	講演内容(講演題目及び講演者)
高次脳機能障がい 市区町村担当者養成研修会	市区町村等担当職員	平成24年10月24日	26名	①「大阪府における高次脳機能障がい支援普及事業について」 「拠点機関の役割と地域連携について」 (大阪府障がい者自立相談支援センター 身体障がい者支援課 課長 今春 泰邦氏) ②「大阪府立障がい者自立センターの取組み」 (大阪府立障がい者自立センター 課長 脇田 康夫氏) ③「高次脳機能障がいとは」 (大阪府立急性期・総合医療センター リハビリテーション科 部長 渡邊 学氏) ④「診断基準の経過及び内容」 (大阪府立急性期・総合医療センター リハビリテーション科 OT 池埜 弥生氏) ⑤「高次脳機能障がいの診断と評価」 (大阪府立急性期・総合医療センター 心理 岡部 伸太郎氏) ⑥⑥「社会福祉制度について 事例報告(3センター)」 ・(大阪府立急性期・総合医療センター MSW 酒井 味香子氏) ・(大阪府立障がい者自立センター CW 小山 智美氏) ・(大阪府障がい者自立相談支援センター CW 西野 朋子氏) *グループワークとグループ発表
		平成24年11月7日		①..ロールプレイ *グループワークとグループ発表 ②当事者・家族からの報告及び情報交換会 「当事者・家族からの体験報告」 ・(豊中脳損傷家族会「アンダンテ」 宮城 秀夫氏) ・(NPO大阪脳損傷者サポートセンター 石橋 佳世子氏) ・(東大阪え〜わの会 松永 裕介氏) ・(八尾のほっと♡ケーキの会 伊丹 英美子氏) ・(堺脳損傷協会 日野 玲子氏) *グループ別交流会報告
高次脳機能障がい 医療関係機関等職員研修会	医療関係機関等職員	平成24年12月1日	—	—
高次脳機能障がい 支援関係機関職員等研修会 (Ⅱ)	支援関係機関等職員	平成25年2月22日	—	—

## 近畿ブロック 講師派遣状況

研修会・セミナー名	対象者	開催日	出席者数	講演派遣者名及び講演題目
京都府				
京都府リハビリテーションフォーラム	医療関係者	平成24年6月21日	200名	「高次脳機能障害外来からみた現状と課題」 (京都府リハビリテーション支援センター長 武澤 信夫)
第3回高次脳機能障害支援セミナー	当事者・家族、一般市民	平成24年11月10日	—	「高次脳機能障害とは」 (京都府高次脳機能障害支援コーディネーター 大戸 淳志)
和歌山県				
職員研修	施設職員	平成24年7月4日	50名	「高次脳機能障害の理解と対応」 (子ども・女性・障害者相談センター 川崎 美穂)
奈良県				
橿原市社会福祉協議会主催 ケアマネジャー支援研修会	(橿原市)地域担当 ケアマネジャー	平成24年11月21日	60名程度	(内容) 高次脳機能障害の基礎知識、高次脳機能障害普及事業と制度、 高次脳機能障害者の対応 (奈良高次脳機能障害支援センター 支援コーディネーター 河地 睦美)
学校法人 青丹学園 関西学研医療福祉学院 講義	学生	平成24年12月6日	—	地域における高次脳機能障害支援センターの役割 (奈良高次脳機能障害支援センター 支援コーディネーター 河地 睦美)
滋賀県				
高次脳機能障害支援センター				
高次脳機能障害相談支援者養成研修	相談支援機関	平成24年10月13日	36名	「社会的行動障害」 (小西川 梨紗)
高次脳機能障害相談支援者養成研修	相談支援機関	同上	36名	「診断基準の経過及び内容」 (原田 晴美)
兵庫県				
平成24年度神戸市更生施設連盟職員 一般研修	施設職員	平成24年7月4日	25名	白川雅之 高次脳機能障がい理解と対応
第19回明石在宅復帰連携検討会	ケアマネジャー	平成24年9月13日	40名	白川雅之 在宅ケアに役立つわかりやすい高次脳機能障害
神戸市コーディネーター連絡会	相談支援員	平成24年10月5日	40名	藤坂幸広 高次脳機能障害相談窓口について
平成24年度愛媛県高次脳機能障害 支援普及事業講習会	医療・保健・福祉 等関係者	平成24年11月3日	400名	藤坂幸広 事例報告パネルディスカッション
大阪府				
大阪高次脳機能リハビリ研究会	高次脳機能障がいを中心とする 脳損傷にかかわる専門職	平成24年6月14日	約30名	「WAIS-IIIについて～考えた方と解釈の基礎～」 (大阪府立障がい者自立センター 自立支援課 辻野 琢也)
市町村障がい者福祉担当者向け研修	市町村障がい者 福祉担当者	平成24年6月15日	34名	「障がい者支援施設(旧身体障がい者療護施設)の利用について」 (大阪府障がい者自立相談支援センター 身体障がい者支援課 馬場 利雄) 「高次脳機能障がいの理解と支援について」 (大阪府障がい者自立相談支援センター 身体障がい者支援課 西野 朋子) 「障がい者自立センターについて」 (大阪府立障がい者自立センター 自立支援課長 脇田 康夫)
平成24年度第1回高次脳機能障害支援 コーディネーター 全国会議	都道府県の高次 脳機能障害支援 コーディネーター 等	平成24年6月26日	119名	「教育機関との連携について～研修会による啓発と現状把握～」 (大阪府立障がい者自立センター 自立支援課 辻野 琢也)
大阪府立急性期総合医療センターリハ ビリ科現任研修	リハビリ科職員	平成24年7月25日	35人	—
大阪府立急性期総合医療センターすこ やかセミナー	大阪府民	平成25年3月22日	—	高次脳機能障害—支援制度とリハビリテーションの紹介

## 「大阪府内関係機関における高次脳機能障害者の就労支援に関する調査」

### まとめ

#### 1.調査の目的

○高次脳機能障害者の就労支援体制の実態調査と問題点の抽出

大阪府内の各関係機関に対し調査を行い、高次脳機能障害者の就労に関する相談件数や内容を把握し、就労に関する課題把握及び今後の対策の検討を行う基礎資料とする。

#### 2.調査について

##### (1)調査対象と調査方法等

調査対象：大阪府内（大阪市、堺市を含む）の急性期・回復期病棟を持つ医療機関、就労移行支援事業所、障害者就業・生活支援センター、相談支援事業所  
計 313 か所

調査方法：調査票を郵送にて配布、回収

調査期間：平成 24 年 11 月 1 日～30 日

##### (2)調査票の回収結果

調査種類	配布数	回収数	回収率
①医療機関	89	47	52.8%
②就労移行支援事業所	144	91	63.2%
③障害者就業・生活支援センター	18	12	66.7%
④相談支援事業所	62	30	48.4%
合計	313	180	57.5%

#### 3. 調査の留意点

○集計結果はすべて、小数点以下第 2 位を四捨五入しており、比率の合計が 100.0%にならない場合がある。

○設問については、項目を選択する選択式のものと自由に意見を記載する記入式がある。

○選択式については、単数回答（項目から 1 つを選択するもの）と複数回答（項目から複数選択できるもの）がある。

○複数回答の場合、集計の結果の比率の合計が 100.0%にならない場合がある。

○本文中の「N」は設問のサンプル数（集計対象者数）を表している。

## 1. 高次脳機能障害者の数について

(入院・通院数、登録者数、相談者数等からの結果)

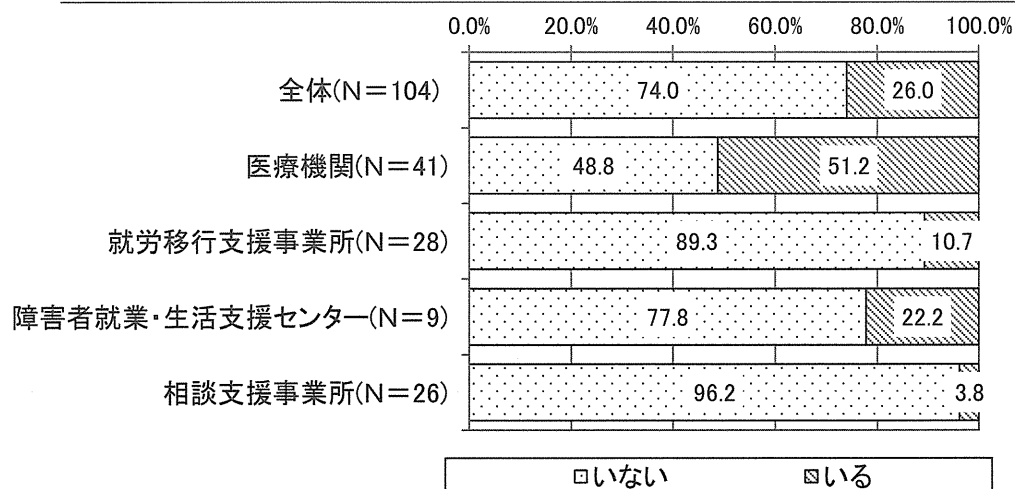
○高次脳障害者の有無を各機関の全体件数(N数)に占める、回答件数(入院や在籍、登録、相談等をしている機関件数)の割合でみると、就労支援事業所においては30.8%となっており、他の分野の機関と比較すると割合が低くなっています。

○1機関あたりの人数でみると、医療機関では入院が20.4人(通院16.4人)、障害者就業・生活支援センターでは登録が8.6人(相談6.0人)、相談支援事業所では相談が4.1人、就労移行支援事業所では在籍が3.1人と、医療機関から就労支援の工程で、人数が減少している状況となっています。

	医療機関 (N=47)		就労移行 支援事業所 (N=91)	障害者就業・生活 支援センター (N=12)		相談支援 事業所 (N=30)
	入院	通院	在籍	登録	相談	相談
①回答機関数【件】	39	30	28	12	9	26
②回答割合(①÷N)【%】	83.0	63.8	30.8	100.0	75.0	86.7
③入院者数等の計 (①の回答機関における人 数計)【人】	795	493	88	103	54	106
④1機関あたり人数 (③÷①)【人】	20.4	16.4	3.1	8.6	6.0	4.1

## 2. 高次脳機能障害者の復職者、就労者の有無について

○復職、就労者が「いる」割合については、医療機関で約半数となっていますが、就労移行支援事業所、障害者就業・生活支援センター、相談支援事業所では少ない状況です。





参考設問：医療 2、就労移行支援事業所 2、就業・生活支援センター3、相談支援事業所 2

### 3. 高次脳機能障害者の復職者、就労者数について

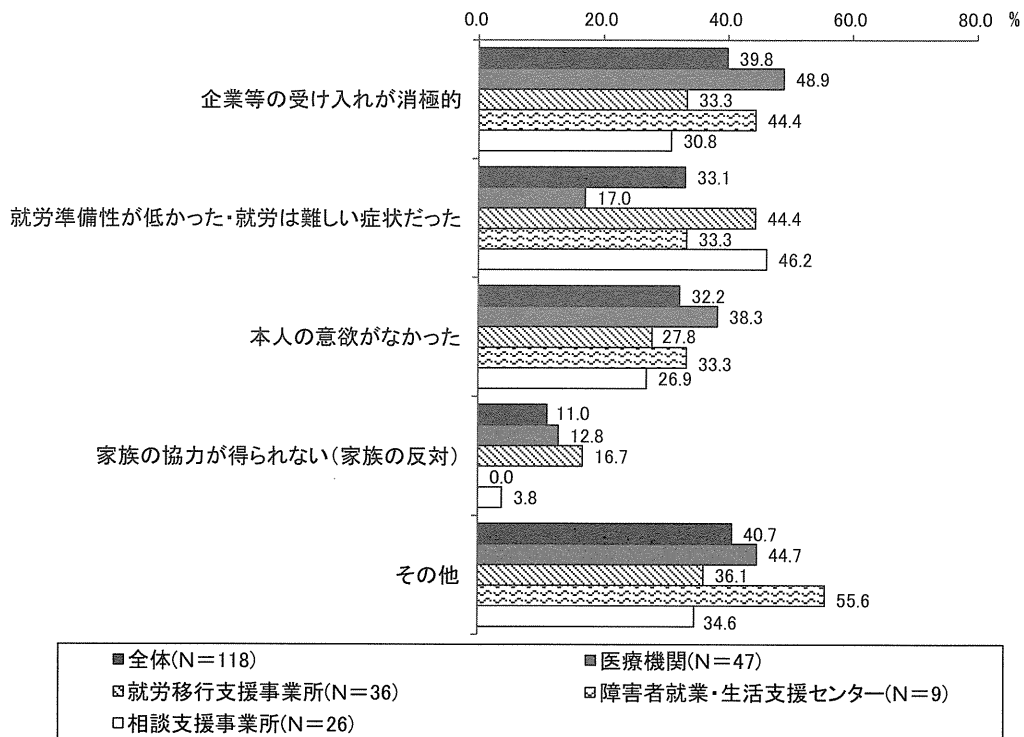
○高次脳機能障害者で復職・就労した人数については、全体で112人となっています。その内訳をみると、ほとんどが医療機関(104人)となっています。

	全体 (N=104)	医療機関 (N=41)	就労移行 支援事業所 (N=28)	障害者就業・生 活支援センター (N=9)	相談支援 事業所 (N=26)
①復職・就労者が「いる」と回答した機関数【件】	27	21	3	2	1
②回答割合(①÷N)【%】	26.0	51.2	10.7	22.2	3.8
③復職者・就労者の計(①における人数計)【人】	112	104	2	3	3
④1機関あたり人数(③÷①)【人】	4.1	5.0	0.7	1.5	3.0

参考設問：医療 8、就労移行支援事業所 7、就業・生活支援センター8、相談支援事業所 7

### 4. 復職や就職が困難な要因について

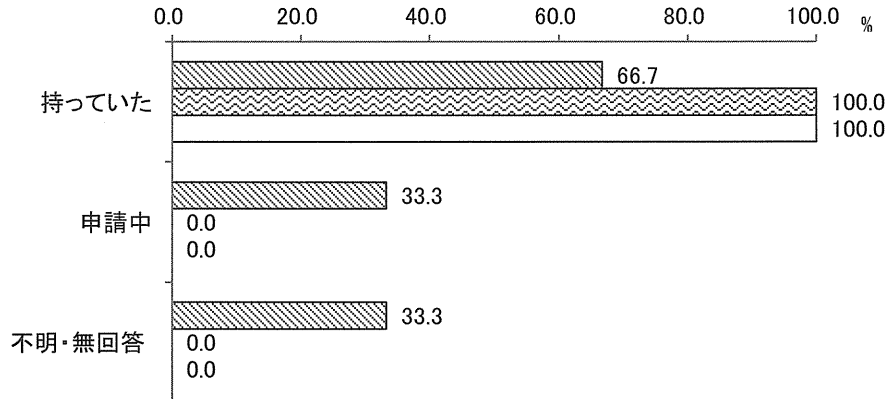
○高次脳機能障害者の復職や就職が困難な要因については、全体では「その他(患者の症状・状態、障害受容、周囲との関係性づくりなど)」が40.7%と最も多く、「企業等の受け入れが消極的」が39.8%、「就労準備性が低かった・就労は難しい症状だった(相互理解、感情抑制が難しいなど)」が33.1%、「本人の意欲がなかった」が32.2%と続いています。



参考設問：就労移行支援事業所 3、就業・生活支援センター4、相談支援事業所 3

## 5. 障害者手帳・高次脳機能障害医師診断書の所持について

○高次脳機能障害者のうち、障害者手帳、高次脳機能渉外医師診断書の所持については、「持っていた」が、全体6件中、5件となっています。また、申請中は1件のみとなっています。



就労移行支援事業所(N=3)  
 障害者就業・生活支援センター(N=2)  
 相談支援事業所(N=1)

参考設問：就労移行支援事業所 6、就業・生活支援センター6、相談支援事業所 6

## 6. 企業に協力できることについて

○企業に協力できることとしては、「本人についての情報、障害特性の情報の伝達に関すること」「相談支援、相談機能に関すること」「定期訪問、企業訪問に関すること」などは、就労移行支援事業所、障害者就業・生活支援センター、相談支援事業所で共通して可能なこととなっています。

	就労移行支援事業所	障害者就業・生活支援センター	相談支援事業所
本人についての情報、障害特性の情報の伝達に関すること	○	○	○
相談支援、相談機能に関すること	○	○	○
就労環境整備の方法と対策等の提案に関すること	○	○	—
ジョブコーチの利用・派遣に関すること	○	○	—
定期訪問、企業訪問に関すること	○	○	○
生活支援に関すること	—	○	○
障害の理解促進に関すること	○	○	○
医療機関等との連携に関すること	○	○	○
その他	○	○	○

## 7. 紹介・連携する機関について

○日頃、紹介や連携する機関について上位7項目をみると、「⑥市町村の障害担当課」が、医療機関、就労移行支援事業所など、すべての分野の機関で上位のランクにあがっています。

また、「②支援拠点機関(大阪府障がい者自立相談支援センター)」「⑩障害者就業・生活支援センター」「⑧(①以外の)医療機関」については、医療機関を除く、他の3分野での機関で上位となっています。

そのほか、「③支援拠点機関(大阪府立障がい者自立センター)」「④相談支援事業所」「⑮介護保険関係事業所(ヘルパー、ケアマネ等)」「⑫ハローワーク」については、2分野の機関で上位となっています。

### 【紹介・連携する機関の上位7項目】

	医療機関 (N=47)	就労移行 支援事業所 (N=3)	障害者就業・生活支援 センター (N=9)	相談支援事業所 (N=1)
1位	③支援拠点機関(大阪府立障がい者自立センター) 51.1%	④相談支援事業所 33.3%	⑫ハローワーク 88.9%	①支援拠点機関(大阪府立急性期・総合医療センター) 100.0%
2位	⑥市町村の障害担当課 51.1%	⑥市町村の障害担当課 33.3%	⑨障害者職業センター 77.8%	②支援拠点機関(大阪府障がい者自立相談支援センター) 100.0%
3位	⑮介護保険関係事業所(ヘルパー、ケアマネ等) 46.8%	⑧(①)以外の医療機関 33.3%	⑪就労移行支援事業所 77.8%	③支援拠点機関(大阪府立障がい者自立センター) 100.0%
4位	②支援拠点機関(大阪府障がい者自立相談支援センター) 36.2%	⑩障害者就業・生活支援センター 33.3%	②支援拠点機関(大阪府障がい者自立相談支援センター) 66.7%	⑥市町村の障害担当課 100.0%
5位	⑩障害者就業・生活支援センター 34.0%	—	⑧(①)以外の医療機関 55.6%	⑧(①)以外の医療機関 100.0%
6位	⑫ハローワーク 34.0%	—	④相談支援事業所 44.4%	⑩障害者就業・生活支援センター 100.0%
7位	⑦市町村の介護保険担当課 31.9%	—	⑥市町村の障害担当課 44.4%	⑮介護保険関係事業所(ヘルパー、ケアマネ等) 100.0%

※⑧(①)以外の医療機関・・・①は支援拠点機関(大阪府立急性期・総合医療センター)

※就労移行支援事業所は回答数が少ないため、4位までの順位となっている。

※就労移行支援事業所、相談支援事業所は回答数が少ないため、同率の項目が多くなっている。

## 8. 高次脳機能障害者の就労支援で不足していると思う資源等、 また、今後の高次脳機能障害者への就労支援施策についての意見

○就労支援で不足していると思う資源については、「相談窓口、相談できる場等に関する事」「(企業の)受け入れ体制や職場の理解に関する事」「連携に関する事」「訓練機関、就労支援関連事業所に関する事」が特に意見が多かった項目となっています。

○今後の就労支援施策については、「周知・啓発に関する事」「連携に関する事」が特に意見が多かった項目となっています。

### 【就労支援で不足していると思う資源等】

	医療機関	就労移行支援事業所	障害者就業・生活支援センター	相談支援事業所
相談窓口、相談できる場等に関する事	◎	○	◎	◎
周囲の理解に関する事	◎	◎		○
専門職員等の配置に関する事	◎	○		○
(企業の)受け入れ体制や職場の理解に関する事	◎	◎	○	◎
連携に関する事	◎	◎	◎	○
情報・知識等の習得に関する事		◎		○
集まれる場、日中活動の場等に関する事		◎	○	◎
訓練機関、就労支援関連事業所に関する事	◎	○	◎	◎
訓練メニューや就労プログラムに関する事	○	○	◎	○

### 【今後の就労支援施策等】

	医療機関	就労移行支援事業所	障害者就業・生活支援センター	相談支援事業所
周知・啓発に関する事	◎	◎	◎	○
就労支援・体制に関する事	◎	○	○	◎
相談窓口に関する事	◎	○	○	
連携に関する事	◎	◎	◎	○
制度やシステムに関する事	◎	○	○	○
研修の開催、研修への参加に関する事		◎	○	◎
職員の技能向上、学習、情報収集等に関する事	○	◎		
訓練機関に関する事			◎	○
障害特性に合った資源に関する事				◎
受け入れ先に関する事	○	○	○	○

※上記は自由意見の主な回答を項目ごとで区分し、たまとめたもの

※◎は2つ以上の複数の意見が見られたもの、○は意見がみられたもの

近畿ブロック 研究発表(論文)

著者名	タイトル	発表誌名	巻号(ページ)	出版年
滋賀県				
高次脳機能障害支援センター				
植田 仁美	「スポーツでリハビリを！」～高次脳機能障害への新たなリハビリテーションプログラムの導入～	第35回社会福祉事業団職員 実践報告・実務研究論文集 P24～33	—	平成24年(予定)
兵庫県				
庄敦子・高野真	急性硬膜外血腫後の高次脳機能障害と診断された筋強直性ジストロフィーの1例	日本リハビリテーション学会雑誌	印刷中	平成24年
増本康平・白川雅之	健忘症患者の記憶障害に対する自己認識	心理学研究	印刷中	平成24年
大阪府				
宮脇 健三郎・佐野 睦夫・米村 俊一・大出 道子・松岡 美保子	高次脳機能障害者の同時並行調理ナビゲーション～記憶・注意障害患者を対象としたケーススタディ～	映像情報メディア学会誌	Vol. 66 No.12 p. J481-J491	平成24年12月

近畿ブロック 研究発表(学会発表)

発表者名	タイトル	学会名	場所	日時
京都府				
武澤 信夫	「京都府高次脳機能障害支援プラン策定と5年間の取り組み」	第36回日本高次脳機能障害学会学術総会	宇都宮市	平成24年11月22日
滋賀県				
滋賀県リハビリテーションセンター／成人病センター				
渡辺幸子	高次脳機能障害者の集団プログラム～クルールの継続と社会適応の変化について～	第31回日本心理臨床学会	愛知県	平成24年9月14～16日
川上寿一	高次脳機能障害における社会生活尺度の活用 第1報	第36回日本高次脳機能障害学会学術総会	宇都宮市	平成24年11月22日・23日
佐敷俊成	高次脳機能障害における社会生活尺度の作成	第36回日本高次脳機能障害学会学術総会	宇都宮市	平成24年11月22日・23日
宮本 昌寛	高次脳機能障害者のための能動的役割プログラムの検討	滋賀県連携リハビリテーション学会研究大会	滋賀県近江八幡	平成24年12月9日(予定)
兵庫県				
奥田志保・川島有紀子・因來愛実・毛利友香・延本尚也・高野真	蘇生後脳症により失語、視覚失認、失行など多彩な神経症状を呈した症例	第49回日本リハビリテーション医学会学術大会	福岡	2012.5.31-6.2
津田明子・柴田八衣子・石谷典子・木村貴子・西尾真人・杉本亜由子	脳血管障害者の自動車運転について～退院後のフォローアップ アンケート調査より～	第46回日本作業療法学会	宮崎	2012.6.15-17
上野正夫・奥田志保・高野真	蘇生後脳症により視覚失認を中心とした多彩な神経症状を呈した一例	日本神経学会 第96回近畿地方会	大阪	2012.7.7
津田明子・木村貴子・杉本亜由子・白川雅之・因來愛実・原良昭・石谷典子・東山毅・横山和正	脳血管障害者の自動運転について—神経心理学的検査を用いた試乗適性検査結果の予測—	第36回日本高次脳機能障害学会学術総会	宇都宮市	2012.11.22-23
因來愛実・白川雅之・東山毅・横山和正・高野真	左手に道具使用の異常が見られた皮質基底核変性症候群の一例	第36回日本高次脳機能障害学会学術総会	宇都宮市	2012.11.22-23
大矢礼子・大熊智子・細貝清美・白川雅之・因來愛実	高次脳機能障がいサポートを創るための活動報告～当事者、家族、専門職、すべての支援者が繋がることを目指して～	第13回兵庫県総合リハビリテーションケア研究大会	神戸	2013.2.24

近畿ブロック 研究発表(学会発表)

発表者名	タイトル	学会名	場所	日時
大阪府				
渡邊 学・辻野 精一・野口 和子・高丸 優子	光点視野テストで正常所見を示し、古典的な対座法で同名半盲を認めた高次脳機能障害の一例	第32回リハビリテーション医学会近畿地方会	奈良市	平成24年3月10日
佐野 睦夫・宮脇 健三郎・米村 俊一・大出 道子	料理行動ナビゲーション支援に基づく高次脳機能障害者の認知リハビリテーション	第22回認知リハビリテーション研究会	東京都	平成24年10月6日
Miyawaki, K., Sano, M., Yonemura, S., and Ode, M.	Cooking Rehabilitation Support for Self-Reliance of Cognitive Dysfunction Patients	CEA2012	奈良市	平成24年11月2日
坂本 典子・森本 幸二・岡部 伸太郎・渡邊 学	不穏行動とその欲求～急性期頭部外傷例の行動から	第36回日本高次脳機能障害学会学術総会	宇都宮市	平成24年11月23日
酒井 味香子・渡邊 学・山中 緑	就労中に発症・受傷した高次脳機能障害者の外来リハビリ後の社会復帰状況	第36回日本高次脳機能障害学会学術総会	宇都宮市	平成24年11月23日
奥田 真規・渡邊 学	頭部外傷患者に対する急性期リハビリテーションの一考察	第36回日本高次脳機能障害学会学術総会	宇都宮市	平成24年11月23日
辻野 琢也・酒井 味香子・渡邊 学	大阪府内の学校における高次脳機能障がいの実態調査について	第36回日本高次脳機能障害学会学術総会	宇都宮市	平成24年11月23日
氏田 亮・米村 俊一・宮脇 健三郎・佐野 睦夫・大出 道子・光森 洋美	高次脳機能障害者の遠隔調理支援インタフェースの検討	第95回ヒューマンインタフェース学会研究会	東京都	平成24年12月5日

厚生労働科学研究費補助金  
高次脳機能障害の社会参加支援に関する研究

近畿ブロック 平成 25 年度事業計画  
分担研究者 渡邊 学

1, 近畿ブロックにおける各都道府県及び政令指定都市の支援普及事業推進やブロック内の連携緊密化:特に主題を「高次脳機能障害者の社会参加支援」にFocusをあてる。

(1)近畿ブロック連携協議会の開催(H25年12月開催予定)

H25年度の支援体制・実績やH26年度の事業企画を、特に「高次脳機能障害者の社会参援」について問題点を中心にまとめる。

(2)ブロック内各都道府県で特に移動が多いため、経験が少ないコーディネーターも多く、コーディネーターの連携・情報提供の強化をはかり、「高次脳機能障害者の社会参加支援」における、問題点等の情報の共有を図る。

具体的計画

1, 近畿の各コーディネータが他の府県・政令指令都市の、医者やコーディネーターに相談しやすい環境作りをさらに強化する

そのため、

1)近畿ブロックをはじめとした、支援コーディネーターの情報交換や適切な講師に依頼した勉強会を行う(25年度2回予定)。

2)近畿ブロックコーディネーターによるメイリングリストを利用し連携の緊密化を図る。

2, 就労支援体制の問題点の更なる抽出と、対策の試み。

H24年度に行った、アンケート(H24年度のまとめ参照)の結果をもとにし、就労移行事業所等、就労を前提とした事業所での問題点などをさらに詳細に検討し、また就労継続のフォローアップがどこまで出来るか検討する。

厚生労働科学研究費補助金（精神障害研究事業）  
（分担）研究報告書

高次脳機能障害者の社会参加支援の推進に関する研究

研究分担者 永廣信治 徳島大学脳神経外科教授

研究要旨

四国ブロックでは、四県すべてで支援活動が定着してきた。啓蒙活動を継続すると共に、四国全県の支援に関わる行政・医療・福祉サービス機関を対象とし、実態把握・支援の充実を目的としてアンケート調査を実施し、集計解析中である。各県で成果をまとめた学会発表等が活発に行われた。

A. 研究目的

四国全県において支援活動が定着しつつあり、講演会・研修会等の啓蒙活動を継続して行う。支援施設の実態調査を行い、研究成果をまとめ発表する。

B. 研究方法

- 1) 四国各県において、連絡協議会や高次脳機能障害講習会・研修会の活動を継続する。
- 2) 支援実態調査：各県の中核施設や関連協力施設での相談件数調査を継続する。
- 3) 各県の支援機関・自治体・家族会の活動状況調査を継続する。
- 4) 登録した症例について、追跡調査を行う。
- 5) 支援に関わる行政・医療・福祉サービス機関を対象とした四国一斉調査を行い、実態把握・支援充実を図る。

（倫理面への配慮）

相談件数、活動状況調査は個人の情報を登録・公開することはないため、倫理面について問題はない。

C. 研究結果

各県において講習会・研修会（表1）、委員会等（表2）を開催し、当事者・支援機関・施設関係者等への啓蒙を図るとともに各県における相談件数実態調査（表3）を行い、地域社会生活参加の支援体制の充実を図るための活動内容等についての検討を継続している。

関係する行政・医療・福祉サービス機関（計5,857カ所）を対象とした四国一斉アンケート調査を実施した。現在調査表を回収中であり、集計・解析を行い支援体制の充実を図るとともに成果をまとめ学会、雑誌、HP等で発表を行う予定である。

D. 考察

相談件数の増加、講演会・研修会等を継続的な開催が定着し、研究成果は徐々に上がっていると考えられる。

四国一斉調査結果を集計・解析し、問題点を検討することにより、就学や就労等の社会生活復帰に対する支援体制作りに反映させることができると考えられる。

E. 結論

今後、恒常的な成果の積み上げと発展には、継続的かつ精力的な学術的、社会的活動が必要である。

F. 健康危険情報

該当無し

G. 研究発表

1. 論文発表

- (1) 白山靖彦、中島八十一、高次脳機能障害者に対する相談支援体制の概況報告、高次脳機能研究, 32(4), 59-63, 2012
- (2) 白山靖彦、わが国における高次脳機能障害者支援の現状と課題、四国歯学会雑誌, 24(2), 1-6, 2012

2. 学会発表

- (1) 溝渕佳史、永廣信治、中村和己、高次脳機能障害スクリーニングテスト作成の試みと有用性、第35回日本神経外傷学会, 2012. 3. 9-10、東京
- (2) 河野光宏、中村和己、永廣信治、頭蓋内疾患における高次脳機能障害の発生頻度、第14回徳島脳卒中研究会、2012. 2. 12、徳島
- (3) 河井信行、田宮隆他、脳外傷後高次脳機能障害患者におけるPIB-PETを用いた脳内アミロイド蛋白検出の試み、第36回日本高次脳機能障害学会総会, 2012. 11. 22-23, 宇都宮
- (4) 川崎未来、田宮隆ほか、正常圧水頭症のtap testにおける認知機能評価：やる気スコアの有用性、第36回日本高次脳機能障害学会総会, 2012. 11. 22-23, 宇都宮
- (5) 黒川清博、河井信行、田宮隆他、記憶障害を主症状とするびまん性軸索損傷患者における大脳皮質神経細胞障害部位の検討、第36回日本高次脳機能障害学会総会, 2012. 11. 22-23, 宇都宮
- (6) 伊賀上舞、大塚奈穂子、高次脳機能障害患者への就労支援の実態、第36回日本高次脳機能障害学会総会, 2012. 11. 22-23, 宇都宮
- (7) 大塚奈穂子、伊賀上舞他、高次脳機能障害を呈した患者への復職支援、第36回日本高次脳機能障害学会総会, 2012. 11. 22-23, 宇都宮
- (8) 福田綾子、大塚奈穂子、伊賀上舞他、就労継続支援事業所利用中の高次脳機能障害者に対する支援の一例、第36回日本高次脳機能障害学会総会, 2012. 11. 22-23, 宇都宮

H. 知的財産権の出願・登録状況

該当無し



表1 講習会・研修会開催一覧

県名	開催日	会の名称	開催地	参加者数
愛媛県	2012/11/3	平成24年度愛媛県高次脳機能障害支援拠点機関講習会	松山市	
	2012/11/25	愛媛高次脳障害リハビリテーション講習会	伊予市	162
	2012/9/18	(四国中央保健所) 高次脳機能障害支援者連絡会	四国中央市	13
	2012/11/13	(四国中央保健所) 高次脳機能障害支援者連絡会	四国中央市	12
	2013/2 (予定)	(四国中央保健所) 高次脳機能障害支援者連絡会	四国中央市	
	2012/12/1	(西条保健所) 高次脳機能障害者支援研修会	西条市	116
	2012/6/6	(西条保健所) 高次脳機能障害支援担当者会	西条市	42
	2012/8/1	(西条保健所) 高次脳機能障害支援担当者会	西条市	37
	2013/1/9	(西条保健所) 高次脳機能障害支援担当者会	西条市	26
	2012/12/21	(今治保健所) 高次脳機能障害支援関係者研修会	今治市	60
	2012/8/9	(今治保健所) 高次脳機能障害支援関係者連絡会	今治市	26
	2012/10/5	(今治保健所) 高次脳機能障害支援関係者連絡会	今治市	19
	2012/6/28	(中予保健所) 高次脳機能障害支援普及事業担当者会	松山市	29
	2012/8/29	(中予保健所) 高次脳機能障害支援普及事業担当者会	松山市	26
	2012/10/23	(中予保健所) 高次脳機能障害支援普及事業担当者会	松山市	23
	2012/12/14	(中予保健所) 高次脳機能障害支援普及事業担当者会	松山市	22
	2012/10/19	(八幡浜保健所) 高次脳機能障害支援研修会	八幡浜市	41
	2013/3/1 (予定)	(八幡浜保健所) 高次脳機能障害支援連絡会	八幡浜市	
	2012/11/29	(宇和島保健所) 高次脳機能障害研修会	宇和島市	95
2013/1/24	(宇和島保健所) 高次脳機能障害支援関係者連絡会	宇和島市	40	
香川県	2012/9/27	平成24年度高次脳機能障害支援関係職員研修会	高松市	43
	2012/12/15	香川脳外傷リハビリテーション講習会 (損保助成)	高松市	92
	2013/2/16	平成24年度高次脳機能障害講演会 (予定)	三木町	
	2012/2/12	四国労働金庫 社会貢献活動による助成事業 「ふたたび生きる一重複障害とともに」	三木町	68
高知県	2012/6/22	小高坂更生センター職員研修	高知市	14
	2012/11/3	高次脳機能障害リハビリテーション講習会2012 (共催)	宿毛市	37
	2012/11/4	高次脳機能障害リハビリテーション講習会2012 (共催)	高知市	104
	2013/1/20	高次脳機能障害研修会「脳のリハビリ講習会」	高知市	34
徳島県	2012/6/2	高次脳機能障害者支援ワークショップ	徳島市	106
	2012/11/17	一般社団法人日本損害保険協会リハビリテーション講習会	徳島市	140
	2012/8/7	高次脳機能障害者支援普及啓発研修会	吉野川市	23
	2012/9/24	平成24年度高次脳機能障害支援者研修会(美馬保健所)	美馬市	17
	2012/12/8	平成24年度 高次脳機能障害支援者普及事業関係職員研修会 (精神保健福祉センター)	徳島市	72
	2012/12/18	高次脳機能障害研修会	徳島市	16
	2013/1/7	研修会「コンタクトスポーツと頭部外傷および高次脳機能障害について」	阿南市	41
	2013/3/13	関係職員研修会 (予定)	海陽町	約20名
	2012/4/19	徳島県高次脳機能障害支援ネットワーク	徳島市	42
	2012/7/5	徳島県高次脳機能障害支援ネットワーク	徳島市	40
	2012/9/27	徳島県高次脳機能障害支援ネットワーク	徳島市	33

表2 委員会開催一覧

県名	開催日	会の名称	開催地	参加者数
四国ブロック	2012/6/2	四国ブロック担当者連絡協議会	徳島市	33
愛媛県	2012/7/19	平成24年度愛媛県高次脳機能障害支援担当者会	松山市	51
	2012/8/20	愛媛県高次脳機能障害支援連絡協議会	松山市	30
	2013/2/4	愛媛県高次脳機能障害支援連絡協議会	松山市	29
香川県	2013/3/11	香川県高次脳機能障害支援普及事業連絡協議会	高松市	15
高知県	2012/4/5	高次脳機能障害者支援体制資源調査票ワーキンググループ	高知市	8
	2012/4/17	高次脳機能障害者支援体制資源調査票ワーキンググループ	高知市	8
	2012/6/15	第1回高次脳機能障害支援委員会	高知市	22
	2012/8/3	高次脳機能障害者支援体制資源調査票ワーキンググループ	高知市	9
	2012/9/28	第2回高次脳機能障害支援委員会	高知市	17
	2012/11/6	高次脳機能障害者支援体制資源調査票ワーキンググループ	高知市	6
	2013/1/15	高次脳機能障害者支援体制資源調査票ワーキンググループ	高知市	7
	2-13/1/29	第3回高次脳機能障害支援委員会	高知市	16
徳島県	2012/7/26	高次脳機能障害医科歯科連携パス策定委員会	徳島市	16
	2012/7/30	高次脳機能障害支援者交流会(美馬保健所)	美馬市	15
	2013/2/27	平成24年度高次脳機能障害支援者普及事業 地域支援ネットワークづくり検討会議 (精神保健福祉センター)	徳島市	24 (予定)

表3 相談件数一覧

県名	期間	施設名	相談件数		リハ 訓練数	家庭 訪問
			来所・来 院 相談数	電話 相談数		
愛媛県	2012/4/1～12/31	愛媛県中核支援施設	101	346	22	
	2012/4/1～12/31	愛媛県相談支援協力施設 6 箇所	26	25	47	
	2012/4/1～12/31	県内保健所 6 箇所・心と体の健康センター	10	58		17
香川県	H24. 4. 1～25. 1. 31	かがわ総合リハビリテーションセンター	32	173		59
		サンガリハビリプラザ	35	59	240	7
高知県	2012/4/1～2013/1/31	高知ハビリテリングセンター	6	129		
徳島県	2012. 4-9	徳島大学病院	101	123	87	0
		サンガリハビリプラザとくしま	4	8	69	0

厚生労働科学研究費補助金（障害者対策総合研究事業）  
分担研究報告書

高次脳機能障害者の社会参加支援の推進に関する研究

研究分担者 丸石正治 県立広島大学 教授

1. 研究要旨

中国ブロックでは、各県が持ち回りで年に1度ブロック単位の協議会ならびに研修会を実施しており、今年度は岡山県倉敷市で実施された。協議会に各県の拠点施設職員、行政担当者、家族会代表で構成され、全国会議の報告とブロック単位での意思統一がなされた。今年度は、特に失語症者への対応について、周知された。各県ごとの失語症者への対応は様々であるが、拠点機能の充実と普及啓発活動は順調に実施されている。

A. 研究目的

平成24年度は、これまでと同様に各県の情報交換を促進し、よって活動を推進することを目的とした。

B. 研究方法

①中国ブロック高次脳機能障害連絡協議会を設け、各県支援拠点施設の高次脳機能障害支援コーディネーターと、各県家族会代表者による委員会を構成した。各県行政担当者がオブザーバーとして参加した。

②ブロック研修会を年度ごとに各県持ち回りで実施した。本年度は岡山県の担当（下記）で、2日間実施した。

（倫理面への配慮）

本研究で用いられたデータは個人が特定できないようにされたデータのみを使用した。個人情報の公開については、本人およびご家族の同意を得るよう、書面によるインフォームドコンセントを徹底した。

C. 研究結果

1. 中国ブロック会議の体制

厚生労働省「高次脳機能障害支援ネットワーク」研究班の趣旨に則り、各県の支援コーディネーター、家族会代表、医療関係者から委員を構成し、協議会を組織した。各県行政担当者はオブザーバー参加とした。会議委員長はブロック統括である丸石正治が、副委員長は岡山県の種村純教授が務めた。

2. 中国ブロック全体での活動

①中国ブロック連絡協議会

日時 平成25年3月9日（土） 13:30～14:20

会場 川崎医療福祉大学（岡山県倉敷市松島288）

②中国ブロック研修会

日時 平成25年3月9日（土） 14:30～17:00

会場 川崎医療福祉大学2601教室（岡山県倉敷市松島288）

内容

テーマ「高次脳機能障害～社会的行動障害の治療と支援～」

講師

(1)「岡山県精神医療機関における高次脳機能障害の支援について（仮）」

藤田健三 先生（岡山県精神保健福祉センター所長）

(2)「社会行動障害の診断と治療」

大東祥孝 先生（周行会湖南病院顧問・京都大学名誉教授）

対象者

中国ブロック各県の高次脳機能障害支援拠点機関等関係職員  
医療、福祉、行政、就労、教育関係機関職員、一般等

3. 各県活動状況

岡 山 県	
支援拠点機関 (電話番号)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 川崎医科大学附属病院 086-462-1111</li> <li>・ 社会福祉法人 旭川荘 086-245-7361</li> </ul>
支援Cd (職種)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 言語聴覚士</li> <li>・ 精神保健福祉士</li> </ul>
相談者数 (12月末)	(直接相談) ・ 来院/来所 515 ・ 電話/メール/書簡 87 (間接相談) ・ 来院/来所 43 ・ 電話/メール/書簡 165
活動実績	①ワーキンググループ活動の実施 (失語WG) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 失語症者に対する福祉サービス全国実態調査を実施</li> <li>・ 失語症者を対象とした日中活動を週1回(水曜日・午後)実施</li> <li>・ 川崎医療福祉大学のST及び学生ボランティアによることばの訓練、社会的な情報の理解の支援など実施</li> </ul> (小児WG) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 岡山県教育行政関係者との高次脳機能障害児の支援検討を継続</li> <li>・ 小児期発症ケースの評価と認知リハビリテーションの現状、問題点について実態調査の検討を開始</li> <li>・ 旭川荘療育アカデミーと連携して、小児の高次脳機能障害についての講座を開催。</li> <li>・ 教員を対象とした研修会の実施や、教育現場との連携を図った。</li> </ul> (医療WG) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 症例検討会の実施</li> </ul> (福祉WG) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日中活動の実施及び失語症者の受入</li> <li>・ 福祉サービス利用、年金受給、成年後見制度の利用及び職場復帰に係る相談支援の実施。</li> </ul> (地域連携WG) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県北や作業所、家族会への協力</li> </ul> (精神科WG) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県内精神科医療機関における高次脳機能障害者支援の実態調査を実施。</li> </ul> ②脳外傷友の会モモや工房かたつむり、シードの会活動への協力 ③高次脳機能障害に関する研修を実施する機関への協力(講師派遣) ④地域における研修会の開催 ⑤講習会の開催 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「地域で支える高次脳機能障害」</li> <li>・ 「社会的行動障害の治療と支援」</li> </ul> ⑥グループワーク、家族支援の実施と見学者の受け入れ ⑦高次脳機能障害学会等での発表 ⑧高次脳機能障害をテーマとした他機関の研究への協力 ⑨広報への掲載やパンフレット等配布による普及活動